日本大判寫眞家協会　会報

image circle　イメージサークル

2017 年 3月号　Vol. 201　　平成29年 3月　5日　発行　　Homepage: http://lpa-japan.sakura.ne.jp/index.html

発行人　鈴木　克彦　　編集人　松本　憲治

本　　部： 606-8174 京都市左京区一乗寺染殿町3-708（鈴木克彦方）携帯 080-3133-2651 TEL&FAX 075-781-3854
事　務　局：599-8111 大阪府堺市東区日置荘北町1丁47-5（松本憲治方）　TEL&FAX 072-285-2575
名古屋支部：460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町 13-19 富士見町八木ビル601号
プロフォート・NAGOYA内　TEL&FAX 052-332-7740

長野県　美ヶ原高原　　5x7 210ﾐﾘ (上下カット)

レベルアップの考え方

会長　鈴木　克彦

例えば　美ヶ原高原に撮影会に出かけたとしましょう。冬場はホテルの車でしかるべき撮影ポイントに案内される。いざ撮影開始となると不思議なもので、撮影者の好み？でそれぞれが思い思いのフレーミングで勝負が始まります。それは個々人の感性(センスとも言われますが）の勝負になります。何故こうも違ったフレーミングが起こるのか？それは一人の指導者につられて 同じような作図をすることへの戒めです。「人にはそれぞれが違った（あるいは持って生まれた？）美意識や感性があってそれを大事に育てる」とした指導方法を教えたのが、初代会長の玉田先生でした。なぜなら、会員はすでに写真はなんたるかを知った上で、大判カメラに 挑戦してきた人だからです。敢えてあぁせい こうせいとは言わない。先生は敢えて個々人の感性を磨くことを期待していたのでしょう。

一つの考察として、フレーミング（構図）をする場合にはまずもって、① モノに対する美意識　② 観察力（何処に一番惹かれたか) ③ 判断力(レンズの選定、その場合の構図の何処にポイントを持ってくるか、またそれに対する 反芻からシャッターを押すタイミング。それらをほぼ瞬時に決断する。併せて自分の思いのアオリの効用も含めて）　有り難いことに著名な写真家の本も出版されています。ココで自分好みの作風を考えるのも一つの手でしょうか？　協会の研究会では、それぞれの美意識を持った会員に自分の作品を見てもらい、意見を交換することでさらなるレベルアップを進める力になると。

2017展の進捗状況

写真展実行委員長　田中　明

２月研究会に於いて、展示用本番プリントの確認会を実施致しました。

展示プリントを出席者一同で確認

数点の焼き直しと原板フィルムの差替がありましたが、無事に全ての展示プリントの確認が完了しました。この後は、額装作業を経て3月20日頃には会場飾付け担当のマルイ美術様へ納品される予定です。

マルイ美術様との会場での会場飾り付け作業の打合せも、3月25日に完了致しました。作品集の文字校正・色校正も完了し、作品集の発送は印刷終了後の3月20日頃に、皆様のお手元に発送の予定です。この後は、3月28日の京都展開幕を待つばかりとなります。

先月号にて各展示会場での受付等のお手伝いをお願いしましたが、現時点で京都展の会場当番の希望者が少なく、このままでは会場運営に支障が出ると予想されます。交代で受付等を担当戴くには、「最低でも8名程度（現状はその約半分）」の人員が必用です。ついては、関西地区の会員におかれては同封の「京都展会場当番表」を参照頂き、人数が手薄な曜日（ほぼ全ての曜日）の内、お手伝い戴ける日時を事務局宛にご連絡下さい。

3月研究会のおしらせ

研究会担当　垣内　晃

3月の研究会を下記の日程で開催致します。3月は作品の投影と講評を中心に行いますので、作品の投影をご希望される会員は、作品を5点以内で事務局宛に事前に送付下さい。

日時：3月11日 (土) 13:30~17:00

場所：大阪写真会館 2階会議室

内容：

１．作品投影と講評：

作品の投影を希望される会員は、作品を5点以内で事務局宛に3月7日までに郵送下さい。事前にフィルムをスキャンして投影できるよう準備します。ご自身でデジタルデータ化出来る会員は、当日、研究会の会場に持参するか、CD-ROM等にコピーの上、研究会前日迄に必着で事務局に郵送下さい。

２．その他連絡事項

※なお、3月研究会終了後に、モノクロ研究会の参加メンバーだけの打合せを行います。参加メンバーは、会場に残って下さい。

事務局からのおしらせ

事務局　松本憲治

3月研究会終了後、運営委員会を開催致しました。会議での打合せの中で、1) 年会費の値上げ、2) 写真展の出展費用の値上げ、3) 写真展展示作品の縦横比について、以下の様な意見が出されましたのでご連絡致します。

1) の会費値上げが必用との理由には、以下の様な意見が出ました。

1. 年会費を３0,000円から12,000円に値下げして以降、協会の一般会計は約10万円程度の赤字が継続している状況にある。
2. 作品の投影方法を変更して以降、原板の返送等の郵送料も嵩み、更に赤字が膨らむ傾向にある。
3. 現状は、資金的に講師への謝礼が確保できず、講師を招聘できない状況にある。

以上のような意見を考慮すると、会員各位に年会費の値上げをお願いする必要があります。値上げ案としては、18,000円 (月額にして1,500円) 程度への改定案が有力ですが、値上げ幅は定期総会まで引続き検討致します。

2) の写真展の開催費用に関しては、2017展では出展する会員も減り、また公募展の応募者も年々減少する状況下では、出展料の15,000円程度（2点目は10,000円）への値上げも必用となる旨の意見が出ました。

3) の展示作品の2:3比率のトリミングについては、公募展の応募者を増やすためにも「出展作品の縦横比を、現状の「2：3に統一」からフィルムのフォーマットを活かした「自由な比率での出展」も可とする案が提案されました。2017展においても、中判フィルムの作品は、6x4.5、6x6、6x7、6x9、6x12、6x17と多様なサイズで撮影されており、大判フィルムで撮影した作品を出展される方にも「トリミング無しでの出展を希望」する方もおられます。出展する作品のトリミングに関しては、今後も継続して検討を行い、7月に2018展の応募要項を作成する際には決定の予定です。

以上の件について、会員各位より建設的なご意見を事務局宛にお寄せ下さい。

モノクロ撮影とフィルター効果

モノクロ研究会　松本　憲治

今回、雪の棚田風景を撮影する機会がありましたので、以下の様な条件でモノクロ撮影用フィルターの使用の有無での撮影結果についてテストを行いました。

御存知の通り、モノクロ撮影においても、撮影時に使用するフィルターの効果に依って、ネガのコントラストを変化させることが出来ます。そのため、モノクロフィルムでの撮影では、カラーフィルムでの撮影にも増して、「フィルターの使用が重要になる」と云えます。今回の雪の棚田の撮影では、「9時過ぎのやや上からの斜光が当たる条件」で、雪の表面のなだらかな陰影を際立たせるのにシャープカット (SC) フィルターが効果あるのでは？と云うことで、SC-56 (橙色) のフィルターを使って撮影を行いました。また、フィルター効果を確認するため、「フィルター無し」の撮影も行いました。比較テストの条件は、以下の通りです。

・使用フィルム：イルフォードDELTA100
・使用レンズ：ニッコール W 150mm F5.6
・使用フィルター：フジ SC-56 (橙色)
・現像液：コダック XTOL 1+3希釈
・現像時間：15分30秒 (20℃)
・SC-56の露光補正値：+1.5

添付の図１がフィルター無しで、図２がフジのSC-56を使って撮影した作例です。現像液を1+3希釈で使用しましたので、全般にややコントラストの高いネガに仕上がってます。

この２枚の作例を比較すると、図１のフィルター無しで撮影した作例は、雪の表面の陰影が柔らかく表現できているのが判ります。一方、図２のSC-56（橙色フィルター）を使用して撮影した作例では、雪の表面の陰影がコントラスト高く描写されています。また、遠景の氷ノ山の山肌や、晴れた青い空も色濃く描写され、全体にメリハリの効いた描写になっています。

今回のような「晴天の日に雪原のなだらかな起伏を撮影する」場合に、どちらの描写が向いているかは撮影者個々の感性によりますが、フィルターの使用で描写に大きな違いが出ることを、モノクロ撮影時の技法の一つとして頭に入れておくのも重要でしょう。

モノクロ写真では、ネガフィルムから最終のプリントを仕上げる段階で、引伸しに使用するVCフィルターの号数を変えたり部分焼込みをすることで、プリント全体のコントラストを変えることも可能です。それ故、撮影時に使用するフィルターを重要視しない考えもあるのでしょうが、やはり撮影時に適切なフィルターを使い『意図するプリントに仕上げ易いネガに創り込んでおく』ことも、重要な撮影技術の一つだと思います。

今回はフィルムをスキャンした画像を元にフィルターの効果を検証しましたが、次回は今回のネガを使って仕上げたプリントを元に、フィルター効果を検証する予定です。

図１　フィルター無しの作例
雪の表面のなだらかな起伏の陰影が、柔らかく描写されている
雪景色を柔らかなグラデーションで表現するには、フィルター無しが効果的

図２　SC-56 (橙色フィルター) 使用の作例
フィルターの効果で、起伏の陰影がよりコントラスト高く描写されている
また、遠景の氷ノ山の山肌や青い空の色もより濃く描写され、画面全体にメリハリのある描写になる